



■ 山梨市商工会女性部の山田喜代美さん（左から3人目）らが手作りマスクを寄贈した＝山梨市役所



■ 上野清教育長（中央）と堀内富久市長（右）にマスクを手渡す伊藤洋平社長＝都留市役所

マスク寄贈力になりたい

■ 山梨・都留市 地元の有志ら

山梨市商工会女性部のメンバーらが15日、市に手作りマスクを寄贈した。女性部の山田喜代美さん（76）ら5人が、布マスク320枚を内藤久夫市長に手渡した。

山梨市三郷町商工会女性部が手作りマスクを町に贈ったことを知り、今月から製作を始めた。約10人が試行錯誤しながらミシンがけや

袋詰めをした。部会メンバーの祖母と一緒に作業した山梨学院小4年の宮崎華子さん（9）は「大変だったけれど、お手伝いができてうれしかった」と話した。

都留市にもこの日、児童生徒のためにマスク4400枚が贈られた。

贈ったのは、都留市のまちづくりに関わり、市と中国・四川省内江市との友好

交流にも貢献している会社「みんなのまちづくり」（東京）を運営し、日中友好協会理事を務める伊藤洋平社長。「何かできることがあればと考えた」という。マスクの箱を受け取った堀内富久市長は「子どもたちへ届け、活用させていた」と感謝を述べた。小学校8校、中学校3校の児童・生徒に1人2枚ずつ配布する。

（小淵明洋、三ツ木勝巳）

■ スマートIC来月開通